

はじめに

二〇一一年一月の大阪市長選・府知事選に大勝して以後、橋下徹大阪市長を代表とする「大阪維新の会」（以下、「維新の会」）は、国政進出に向けた取り組みを強めてきました。「維新八策」というマニフェストの原案を公表したり、次の衆議院選挙に候補者を三〇〇人立てるとして「維新政治塾」を開いたり、また「大阪都」構想や道州制などをめぐり中央政界への働きかけも繰り返しています。そのような動きにマスコミもとびついて報道を過熱させ、国民の中には「維新の会」の国政進出に一定の期待も生まれています。

しかし、私は、橋下氏らが実行しようとしている政治の方向には大きな問題があると見えています。

そもそも三年九ヶ月の大阪府知事としての橋下氏の「実績」は、前知事の太田房江府政以上にひどいものでした。大阪府の「財政を黒字にした」という数少ない自慢話も、中身を見れば、①市民の福祉予算を削る福祉のリストラと、②国からの補助金が増えたことによるもので、これといった独自の工夫や努力の結果ではありません。よくもこんなものを自分の手柄話にできたものだといった内容です。

大阪市職員と大阪市民の「思想調査」をくわだてた業務命令アンケートは、世論の批判

2

によって中止となり、データは「廃棄」（二〇二二年四月六日）されましたが、命令を下した張本人である橋下市長は、今にいたるも職員や市民への謝罪をせず、自らの責任には頼（たよ）りをしたままです。それはアンケート実施（二月九日から）の直前である二月六日に、タイミングよく「維新の会」の杉村市議が当局に持ち込んだ「大阪市交通局リスト」——「交通局と組合が組織ぐるみで市長選に関与していたことを裏付ける」ものだとされた——が捏造（ねつぞう）だったことが発覚（二月二六日）した時に、杉村議員のかばい立てには力をつくすが、またしても自分の責任には一切ふれないという情けない姿にもあらわれました。ことがらへの対応は何より自己保身を最優先しているということです。

さらに橋下氏は、大阪府知事時代の福祉リストラの推進にあたって、住民サービスは府の役割ではない、それは「市町村にやっていただく」と述べていましたが、市長になったいま、実際に行っているのは、「市政改革プラン」（最終案、六月二七日発表）に代表される住民サービスのリストラ推進作業です。口でいうことと、実際にやることがまったく一致していない。そして、それはおそらく最初から自覚的に行われている。となると、これはもうウソつきといわれて仕方がないという問題です。そこに一貫しているのは、福祉をはじめ、住民サービスをいつでも、どこでもリストラしていくという姿勢です。

このような人物が、文字どおり「徒党を組んで」国政に進出することに、私は強い懸念をもっています。喜んでよいようなことでは到底なく、わずかな期待をかけることさえできないものだと思います。

「それでも橋下『維新の会』なら、ともかく今の政治を、何か違った方向に動かしてくれるのではないか」——民主党、自民党という二大政党の体たらくを前にしていれば、そういう気持ちが生まれてくるのはわかります。「今の政治を、指をくわえて見ているゆとりはないのだ」——そういいたくなる生活の大変さがあるのも事実です。

しかし、そうだからこそ、日本の政治と社会をこれ以上ひどいものにしたくないために、しっかりと現実を見つめておく必要があると思うのです。いくら「元気がいい」「勢いがある」といつても、その元氣と勢いで、民主党や自民党がやってきたことよりも、さらにひどい政治を行われたのではたまりません。傷が深くなつてからでは手遅れ、ということもありうるのです。だから、橋下「維新の会」は日本の政治をどのように変えたいと思っているのか、肝心なその政治の中身を、事前に確かめておかねばなりません。

もちろん私は、「民主党、自民党の政治でがまんしよう」ということがいいものではありません。私もこれらの政党の政治には、心の底から嫌気がさしており、それは東日本大震災以後、ますます強いものになりました。人の命を大切にす政治や、お互いを思い

はじめに

3

やり支えあおうとする社会、人間らしい労働と企業の健全な成長をめざす経済。こうした日本にどうすれば近づいていくことができるのか、それを、これまでの経験や発想の枠にとらわれず、真剣に考えねばならないと思っています。

こうした問題意識にもとづいて、この本では、橋下「維新の会」の「実績」と政策を検証し、あわせて橋下「維新の会」にはまかせることのできない、希望もてる日本社会づくりの展望を探ってみたいと思います。話の流れは次のようになっています。ぜひ最後までお読み下さい。

- (1)大阪で橋下府知事がやってきたこと。
- (2)大阪で橋下市長と「維新の会」がやっていること。
- (3)そもそもこの国の政治のゆきづまりの内容は？
- (4)何を転換せねばならないのか？
- (5)「維新八策」で日本はどうなる？
- (6)誰が橋下「維新の会」を支えているのか？
- (7)そして日本社会をどうしていくか？

目次

はじめに 1

第1章 橋下大阪府知事の「実績」は 7

第2章 大阪市長になってやっていること 15

第3章 この国の政治のゆきづまり——「橋下人気」の背景 33

第4章 転換しなければならないものは 49

第5章 「維新八策」で日本はどうなる 77

第6章 橋下「維新の会」を支えているもの 97

第7章 そして日本社会をどうしていくか 107

補論 公務員バッシングの正体 121

装丁 川本浩（つづら堂）

第1章 橋下大阪府知事の「実績」は

橋下徹氏が大阪府知事として初登庁したのは、二〇〇八年二月六日のことでした。そこで橋下知事は幹部職員を相手に、「大阪府は破産会社」「みなさんは破産会社の従業員」「大阪を変えたい」という意気込みのない職員には府庁を去っていただきたい」と檄げきをとばしました。

さて、その後三年九ヶ月の橋下知事時代に、大阪府政はどのようにかわり、府民のくらしはどう変わったでしょう。まずはそこを見ていきます。

財政「黒字」は住民サービスの切り捨てで

「はじめに」でふれた、橋下知事が大阪府知事時代の数少ない「実績」として自慢する